

再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 一般国道4号 <small>かすかべこが</small> 春日部古河バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省	延長 21.5km
起終点 自： <small>さいたまけんかすかべししもやなぎ</small> 埼玉県春日部市下柳 至： <small>いばらきけんこがしやぎはし</small> 茨城県古河市柳橋			
事業概要 一般国道4号は、埼玉、茨城西部、栃木の主要都市を縦貫する延長約80kmの幹線道路であり、北関東地域の広域幹線道路網を形成するものである。 春日部古河バイパスは、春日部市、幸手市、古河市等の交通混雑緩和と地域活性化等を目的とした延長21.5kmのバイパス事業である。			
H18年度事業化	S45年度都市計画決定	—	H18年度工事着手
全体事業費	約244億円	事業進捗率	28%
計画交通量	33,200~56,900台/日	供用済延長	21.5km(暫定)
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 5.1 (残事業) 5.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 202/284億円 事業費：148/218億円 維持管理費：54/66億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,079/1,444億円 走行時間短縮便益：1,045/1,383億円 走行経費減少便益：20/37億円 交通事故減少便益：14/24億円
基準年	平成24年		
感度分析の結果 事業全体・残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=3.4~9.2 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=4.8~5.4 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=4.7~5.3 (事業期間±2年) 【残事業】交通量：B/C=3.0~9.7 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=5.0~5.8 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=5.0~5.5 (事業期間±2年)			
事業の効果等			
(1) 交通混雑の緩和			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道4号春日部古河バイパスに並行する国道4号（現道）の損失時間は、100.5千人時間/年・kmで、全国平均（26.3千人時間/年・km）の約3.8倍。 ・ 国道4号春日部古河バイパスの整備により、交通の転換が図られ、国道4号の渋滞緩和が見込まれる。 			
(2) 安全・安心な通行の確保			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道4号春日部古河バイパスに並行する国道4号（現道）の死傷事故率は、111.4件/億台・kmと全国平均（102.0件/億台・km）を上回る。 ・ 特に、幸手市上高野の交差点の死傷事故率は、615.3件/億台kmで全国平均（102.0件/億台km）の約6倍となっている。 ・ 国道4号春日部古河バイパスの整備により、現道の交通量が転換し、交通事故の減少が期待される。 			
(3) 地域活性化の支援			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新4号国道は、地域高規格道路であり、物の流通、人の交流、地域間の交流などの活性化を促進し、地域の産業流通活動を支えている。 ・ 国道4号（現道）に対し、新4号国道の大型車混入率は高く、地域の産業流通活動や関東～東北の物流に寄与。 ・ 特に、国道4号春日部古河バイパスでは大型車混入率が51.4%と高く、また、周辺に工業団地が整備され、さらに圏央道の開通に伴うIC周辺開発が推進中であり、今後も地域の産業振興等の活性化に不可欠。 			
(4) 防災震災対策			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道4号は、東北自動車道とともに、関東～東北を南北に結ぶ多重性ネットワークを形成し、代替性を確保。 ・ 国道4号は、「第1次緊急輸送道路」に指定されており、災害時における避難・救助をはじめ、物資の輸送、諸施設の復旧など広域的な応急対策活動を行う道路として位置付け。 ・ 東日本大震災では、高速道路が緊急交通路に指定され、その間、国道4号は一般車両の通行を担う道路として機能。 ・ また、国道4号春日部古河バイパスは、圏央道とアクセスし、更なるネットワークの多重性を形成。 			
(5) 広域道路ネットワークの形成			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道4号春日部古河バイパスは、圏央道の五霞IC（仮称）と接続。 ・ 圏央道の久喜白岡JCT～五霞IC（仮称）は平成25年度以降、五霞IC（仮称）～つくば中央ICが平成26年度以降にそれぞれ暫定2車線で供用予定。 ・ 国道4号春日部古河バイパスは、圏央道供用に伴う国道4号の交通量増加に対応するとともに、圏央道へのアクセス路線として不可欠。 			
関係する地方公共団体等の意見			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 埼玉県知事の意見：一般国道4号春日部古河バイパスは災害時における緊急輸送道路のネットワーク強化はもとより、圏央道へのアクセス向上が図られる大変重要な道路であります。引き続き、コストの縮減に十分留意しながら早期完成をお願いします。 ・ 茨城県知事の意見：一般国道4号春日部古河バイパスは、首都圏中央連絡自動車道の主要なアクセス道路であり、企業立地による地域産業の活性化や大規模災害時における緊急輸送道路のネットワーク強化に寄与することから、より一層のコスト縮減を図りながら、早期完成に向け事業を推進されたい。 			
事業評価監視委員会の意見			
事業の継続を承認する。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等			
既に多くの工業団地が整備され沿道開発が進んでいることに加え、圏央道整備に伴う沿線自治体のIC周辺開発計画が進展中である。			

